

「神奈川台場」 色つきの雄姿

幕末の一八六〇年に勝海舟の設計で築造された「神奈川台場」(横浜市神奈川区)の姿を写した写真が米国で見つかった。神奈川台場の写真は、これまでに数枚が発見されているが、今回は顔料で着色された初の「カラー写真」。専門家は「当時の台場の機能を知る上で、良い資料になる」と話し、近く横浜開港資料館(同市中区)が展示する。

(横浜支局・岸本拓也、写真も)

明治初期に撮影

誰が撮影したかは不明という。



写真を見つけたのは、神奈川区に住む会社社長の山本博士さん(四〇)。

昨年十二月、米・カリフォルニア州の古物雑貨屋がインターネットのオークションに出

品しているのを見つけた。交渉の末、今年一月に譲ってもらった。

戦争には一度も使われ、そのまま一九二一年ごろから周辺部た。

地元の収集家が発見、展示へ



神奈川台場の写真の拡大パネルを持つ山本博士さん(横浜市中央区)

現在は、石垣の一部を除き大半が地中に埋もれている。

台場の歴史に詳しい同資料館の主任調査研究員西川武臣さんによると、写真は明治初期、現在の京急電鉄神奈川駅近くの高台から撮影されたとみられる。外国人への土産用に販売された可能性があるという。台場や街並みなどが顔料で色づけされており、「道路の木々や色など、当時の雰囲気伝える良い資料」と評価する。

写真を入手した山本さんは横浜育ちで、地元の歴史に関心があり、五年ほど前から、横浜ゆかりの写真や陶器などを集めていた。「築造百五十年の節目に写真が日本に戻ってきたのはうれしい。横浜の歴史文化を知るきっかけになれば」と話している。